

Wikiつまみぐい

第6回 WikiでLifeHack! / WikiSym 2005レポート

今回は、「WikiでLifeHack!」「WikiSym 2005レポート」の2本立てでお届けします。

増井俊之 (MASUI Toshiyuki)
江渡浩一郎 (ETO Kouichirou)
新井俊一 (ARAI Shunichi)
yomoyomo (YOMOYOMO)

WikiでLifeHack!

TEXT = 増井俊之 (MASUI Toshiyuki)
独立行政法人 産業技術総合研究所

WikiとLifeHack

さまざまな工夫で生活を便利にしようという方法は最近「LifeHack」と呼ばれているようです。筆者は、ユーザインターフェースの研究を行っているのですが、これは計算機を使ったLifeHack技術の研究

と言い換えても良さそうです。長年Wikiを使ってきた結果、WikiはLifeHackに非常に有用であることを確信するに至りましたので、Wikiを使ったLifeHack技術について紹介します。

情報整理のテクニック

情報整理に関する資料や書籍は世の中にあふれていますが、計算機を使った情報整理術を長年いろいろ試してきた経験上、筆者は次のような方針が重要だと考えています。

単純な方法を使う

手間のかかる整理術は長続きしません。運用が簡単でかつ効果が大きい方法を使うべきでしょう。

情報は1カ所にまとめる

情報が分散していると探すのが面倒ですし、ダブルブッキングのような危険も発生しがちです。情報は1カ所で扱うようにしておけば安全です。

各種の機器を活用する

あらゆる予定を携帯電話で管理することになれば予定情報は一元化されますが、入力が大変ですし一覧印刷もできません。「PCが使

えるときはPCで」「携帯電話しか使えないときは携帯電話で」といった具合に、状況に応じていろいろな機器を使えるようにしておけば便利です。

汎用性を重視する

いろいろな環境で情報を利用できるようにするため、特殊なデータベース形式は利用せず、なるべく単純なテキストファイルなどを利用します。

情報は消さない

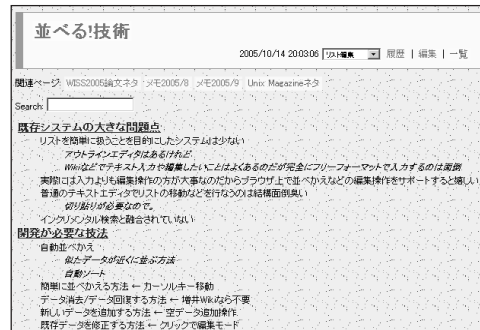
情報を編集するとき、古い情報は消さずに残しておいて、新しい情報だけ使うようにしておきます。最近はふんだんにディスクを使用することができますから、小さな古い情報はまったく消さないことしておけば安全です。

検索技術を駆使する

検索のためにファイル名やディレクトリの

インプロセッサのかわりにWikiを利用しています(図3)。階層的に構成したテキストをWikiページ上で簡単に追加したり並べ替えたりできるので、考えや資料を少しずつまとめていくのに便利です。

図3 アウトラインプロセッサとしての利用



各種の工夫

基本的なWikiの機能だけではLifeHackに十分とは言えないので、さまざまな用途に使えるように各種の拡張を行ったものを利用しています。使っている途中で何度も新しい機能を追加しているため多少ゴチャゴチャしていますが、それでも拡張しつつ便利に使われ続けているところがWikiの柔軟性を示しているように思います。

フロー型データとストック型データの共存

Wikiはストック型データを蓄積するのに向いており、メール/日記/blog記事のようなフロー型データを扱うのには向いていないという議論があります。たしかに、書く順番や日付が意味を持つ情報を普通のWikiページ上に書こうとすると運用に注意が必要です。

Wikiページ上で順番にデータを追加していくことによってWikiを日記や掲示板のように使えるようにするシステムや、メーリングリストとWikiを融合したシステムも提案されていますが、筆者は次のような単純な方法によってフロー型データとストック型データを同じWiki上で扱えるようにしています。

- あらゆるWikiページには日時のIDを関連付け、PIM/2005/11/12/20051112123456.txtのようなファイルに格納する
- ページはフロー型かストック型かの属性を持っている
- 同じタイトルを持つストック型のページが複数ある場合は最新ページだけ表示する
- 同じタイトルをもつフロー型のページが複数ある場合、それらを並べて表示する

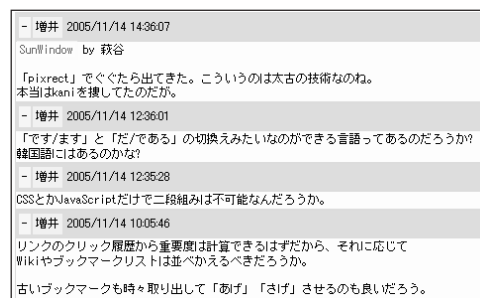
たとえば「SD原稿」というタイトルを持つストック型ページを編集してセーブすると、新しいIDを持つページが生成され、古いページは表示されなくなります。一方「日記」というタイトルを持つフロー型ページを追加した場合は、古い日記と新しい日記は掲示板のように並べて表示されます。

ストック型ページもフロー型ページもデータ構造は同じであり、表示方法が違うだけなのですが、このような工夫によりうまく両者を混在させることができるようになっていきます。前述の図2、図3はストック型の普通のWikiページですが、フロー型のページは図4のように表示されます。

あらゆるWikiページ/日記/メモをこのような形式で管理すると以下の点で有利です。

- ストック型のページを編集しても古いページは消去されないでバージョン管理などを行う必要がない
- 全データは日付順に並んだ単純なテキストになっているのでPalmのようなPDAと同期したりメールを利用してデータをやりとりするのが簡単

図4 「メモ2005/11」というタイトルを持つフロー型ページ



プラグイン

最近の多くのWikiシステムは、書き込んだテキストに処理を加えることによって出力を整形したり別システムを呼び出したりする「プラグイン」機能を持っています。タグとしてよく利用される[[...]]のような記法もプラグインの一種とみなせるかもしれません。筆者のWikiでも、Hikiなど同様のプラグインを利用できるようにしています。

ISBN

ISBNを書店へのリンクに変換するプラグインはさまざまなWikiで利用されています。次のように記述したISBNはAmazonなどへのリンクに変換されます。

```
{{isbn('4756146627')}}
```

PDAと同期したり携帯メールでデータをやりとりする場合はテキスト形式だけ交換することになります。

地図

次のように緯度 / 経度を指定すると地図を表示することができます。

秋葉原ダイピルの地図です。

```
{{webmap('35.41.45.76','139.46.31.26')}}
```

図2の「和歌山県」の地図表示もこのようなプラグインを利用しています。

写真

筆者は写真も時刻IDで管理しており、次のように指定することにより写真を挿入することができます。

剣山 2001/12/8

```
{{image('20011208124154',200)}}
```

ここでは正確な時刻を指定していますが、`{{image('2001/12/8 12:40:00')}}`のように若干ずれた時刻を指定した場合でも、最も撮影時刻に近い写真を探して表示するようにしているため、写真を撮影したとき同時にだいたいの時刻を記録

図5 カレンダー

10 / 30 (日)	10 / 31 (月)	11 / 1 (火)
18:00 宴会		SD原稿締切
11 / 6 (日)	11 / 7 (月)	11 / 8 (火)
	11:00 打合せ	
11 / 13 (日)	11 / 14 (月)	11 / 15 (火)

しておくようにすればWikiページ上でそれを参照することができます。

カレンダー

カレンダープラグインを使うと、テーブルタグを使ってカレンダーを記述できます。次のように、リストをテーブルに変換しているだけなのですが、カレンダーはやはり見慣れた形式のものが見やすく感じられるようです。図5は図示した様子です。

```
{{calendar <<EOF
2005/10/30 18:00 宴会
2005/11/1 SD原稿締切
2005/11/7 11:00 打合せ
EOF
}}
```

検索

検索キーワードを指定すると、タイトルがマッチするエントリへのリンクのリストを得ることができるので、関連するページをまとめて表示するのに便利です。

```
{{query('写真')}}
```

各種の視覚化

ひんぱんにリンクを作成したり編集を行ったりしていると、ページ間の関係がよくわからなくなったり、作ったページのことを忘れてしまったり、編集の履歴がよくわからなくなってしまうことがあります。ページ間のリンク関係や更新時刻を視覚的に表現することによって多数のページをうまく管理できるようにしています。

図6 逆リンクの例

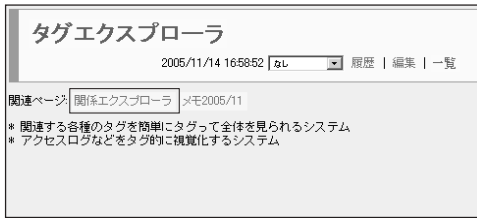
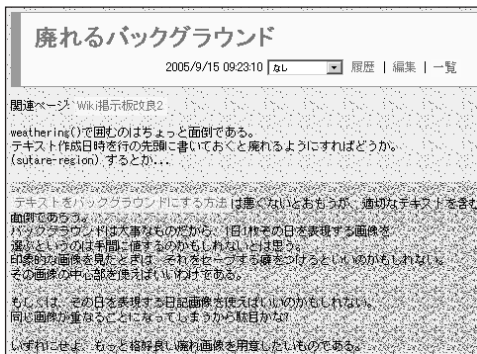


図8 廃れページ



逆リンクの表示

「関係エクスプローラ」というWikiページから「タグエクスプローラ」というページへのリンクがあるとき、図6のように「関連ページ」として表示されます。

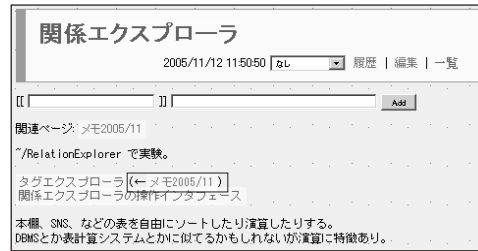
兄弟リンクの表示

「タグエクスプローラ」というページに対しては、「関係エクスプローラ」と「メモ2005/11」という2つのページからリンクが張られており、これらのページは兄弟のような関係にあることができます。

このとき「関係エクスプローラ」のページ内の「タグエクスプローラ」へのリンクの場所において、このページには兄弟ページである「メモ2005/11」からもリンクが張られていることを表示しておけば、これらのページには関連があることができますし、直接ジャンプすることもできるので便利です(図7)。

図2の「和歌山県」のページの「みかん」ページへのリンクの場所に「静岡県」「愛媛県」が表示されているのは、兄弟リンクの機能のおかげです。

図7 兄弟リンク



リスト1 廃れページのサンプル

```
weathering()で囲むのはちょっと面倒である。
テキスト作成日時を行の先頭に書いておくと廃れるようにす
ればどうか。
(sutare-region) するとか...

{{weathering('20040509105107', <<EOF)
[[http://pitecan.com/sutare/test/test7.html テキストを
バックグラウンドにする方法]]は
悪くないとおもいますが、適切なテキストを含む画像を選ぶのが
面倒であろう。
バックグラウンドは大事なものだから、1日1枚その日を表現
する画像を選ぶというのは手間に値するのかもしれないと思
う。
```

ページの廃れ

Wikiページの作成日時に応じてページの背景パターンを変化させて字を読みにくくすることにより、ページの古さを表現しています。また、古いWikiページを編集する場合、新しい部分と古い部分が混雑することになりますが、「廃れプラグイン」を利用することによって古い部分は汚いまま残すことができるようになっています。

リスト1の例では、4行目以降は作成が古いため、明示的に作成時刻を指定しています。実際には図8のようになります。

アクセス履歴の表示

各Wikiページに対するアクセスはすべて記録しており、前掲の図1のようにアクセス履歴を視覚化しています。ページの名前の左側の灰色の矩形の列がアクセス状況を表現しています。黒いほどアクセスが多かったことを示しています。一番右側の矩形は過去1日のアクセス状況、その左側の矩形はその前の2日間のアクセス状況、その左側の矩形はその前の4日間のアクセス状況...という具合に指数的にアクセス状況を

図9 Wikiページを閲覧



視覚化することにより、約1年ぶんのアクセス状況を表現しています。

「あしか」というのは、はてなにインスパイヤされて名付けたTODOリストページなのですが、ひんぱんにアクセスされていることがわかります。また数日前にHyperEstrailerについて集中的に情報収集していたこともわかります。

アクセス回数によってリンクの色を変える

Wikiページに対するアクセスだけでなく、Wikiページから他のページに対してどのようにアクセスが行われているかも視覚化しています。

Firefoxの拡張機能であるGreasemonkeyを利用し、リンクをクリックした回数のログを計算することにより、リンクの背景色を変化させています。何度もクリックされるとだんだん背景が黄色くなっていきますが、時間が経つとまた薄い色に戻っていきます。

編集を楽にする工夫

標準的なWikiページの編集を行う場合、まず「編集」ボタンを押して編集モードにしてテキスト編集を行った後でセーブを行う必要があるのが普通でした。Webページはもともと編集の対象ではなく、Webサーバにテキストを送る手段としてはCGIのフォームを利用する方法しか用意されていなかったためですが、JavaScriptやAjaxのテクニックを利用すれば、普通のPCアプリケーションと同じように、直接操作インタフェースでWikiページを編集す

図10 マウスクリックのみで編集が可能に



ことができます。

本連載コラム担当のyomoyomo氏の言うように、将来のWikiではページの直接編集が標準的になるかもしれません。

編集モードを利用しない入力

筆者のシステムでは、JavaScriptを利用してページを直接編集したり、Ajaxを利用して動的に編集結果をセーブしたりする方法を用意しています。図9は「並べる!技術」についての情報をWikiページ上で閲覧しているところです。

本システムでは、編集ボタンを押してテキスト編集モードに移行する代わりに、テキストをクリックするとその行が編集可能になる機能を付けてみました。前の図で「既存システムの問題点」の行をクリックすると画面は図10のように変化してこの行が編集可能になります。

ここで文字を編集/追加すると、編集結果はAjaxの手法で適宜サーバに送られセーブされます。テキスト以外の場所をクリックすると編集枠は消え、編集後のWikiページが表示されます。文字列をクリックするだけでWikiページの内容を編集/自動保存できるようにしたことにより、Wikiページの編集が非常に簡単になりました。

項目の移動

選択した行およびその下の階層の行は、[SHIFT]を押しながら↑↓←→を押すことによって

図11 項目の移動



図12 項目の畳み込み



図13 項目のフィルタリング



図14 フィルタリングしたものをまとめて表示



移動することができます。図10の状態です「既存システムの大きな問題点」をクリックした後、**[SHIFT]**を押しながら**[↓]**を押すと、図11のように「既存システムの大きな問題点」以下の行がまとめて下に移動します。

項目の追加

[SHIFT]を押しながら行をクリックするか編集中に**[ENTER]**を押すと新しい行が追加されます。

項目の畳み込み表示

[⇅]を押すと、階層表示のレベルを切り替えることができます。図11の状態から**[⇅]**を2回押すと、図12のように深い階層が隠れて表示されます。

項目のフィルタリング

「Search」枠に検索文字列を入力すると、

Migemo (<http://namazu.org/satoru/migemo/>) の手法によってテキストのフィルタリングが行われます。たとえば「sou」と入力すると、図13のように、「sou」という読みを持つ単語「操作」を含む行だけがフィルタされて表示されます。

ここで**[⇅]**を押すことにより、LensBar (<http://pitecan.com/research/LensBar/>) と同じ方式で、検索文字列にマッチした行に加えて浅い階層の行も表示できるようになります。この状態で**[⇅]**を押すと、図14のように、階層が最も浅い行も一緒に表示されるようになります。このような手法は「Focus+Context」と呼ばれ、注目している行と文書全体の構造を同時に眺めることができるのが特徴です。

展望

いろいろな工夫を行いながらWikiを活用しているうちに、筆者はWikiなしでは生活ができない体になってしまったようです。

筆者は、書籍情報を交換する「本棚.org」(<http://hondana.org/>)や位置情報を交換する「地図帳.org」(<http://pitecan.com/Mapmania/>)というWebサイトを運営しています。これらのWebサイトでは、誰もが自由に「本棚」や「地図帳」を作って本や位置情報を登録したり交換したりできるようになっています。

このようなWebサイトの方針はいろいろ考えられますが、筆者自身はWikiにすっかり馴染んでしまっていたため、ユーザ登録やログインすることなく、Wikiに似たタグを利用して情報を書き込むという方式を自然に採用してし

まいました。

最近ソーシャルネットワーキングシステム(SNS)やブックマーク共有システム、写真共有システムなど、Webを利用した各種の情報共有システムが非常に流行してきているようですが、これらの多くはWiki的要素に乏しく、自由度が若干制限されているような気もするので、拡張性があるWiki的な情報共有システムがもっと普及してほしいところです。

今回紹介したWikiは筆者のWebサイト(<http://pitecan.com/UnoWiki/>)で試用することができます。また、機能の詳細については筆者のWebページで公開している別の記事(<http://pitecan.com/articles/>)でも詳しく解説しているのでご参照ください。SD

WikiSym 2005レポート [ペーパーセッション]

TEXT = 江渡浩一郎 (ETO Kouichirou) 2005@eto.com

独立行政法人 産業技術総合研究所

WikiSym 2005

2005年10月16～18日の3日間、アメリカのサンディエゴにて行われた「2005 International Symposium on Wikis」(通称WikiSym 2005: <http://www.wikisym.org/>, 図15)という、Wikiをテーマとしたシンポジウムに参加してきました^注。

WikiSymは、OOPSLAというオブジェクト指向についての学会におけるワークショップの1つとして開催されました。OOPSLAはACM (Association for Computing Machinery)の学会としてはSIGGRAPHと並ぶくらいに大きな学会で、オブジェクト指向の分野においては最も権威ある学会だそうです。WikiSymがその一部として開催されたことは、Wikiが元々オブジェクト指向のコミュニティから生まれたことを思い出させるとともに、現在のオブジェクト指向という言葉が、非常に幅広い領域を意味していることを示しているのではないのでしょうか。

シンポジウムは基調講演を除き、ペーパーセッショ

ンとパネルセッションの2つのセッションが並行に行われました。筆者はペーパーセッションにおいて、筆者自身が開発したWikiエンジン「qwikWeb」の発表をしてきましたので、おもにペーパーセッションについて報告します。並行して行われたパネルセッションについては、新井氏からの報告を後掲しています。

図15 2005 International Symposium on Wikis

<p>The International Symposium on Wikis (WikiSym)</p> <p>A wiki is a kind of content management system used mostly for collaborative work processes. The technology is so flexible, however, that wikis are being used for almost any conceivable purpose. This website hosts information about WikiSym, a symposium (conference) dedicated to wiki research and practice. In October 2005, we held the first WikiSym in San Diego, CA. The proceedings have been archived in the ACM Digital Library. The conference itself was co-located with ACM OOPSLA 2005 and held in cooperation with ACM SIGGRAPH.</p> <hr/> <p>LATEST NEWS</p> <ul style="list-style-type: none"> • WikiSym 2005 is in development! • Please join the WikiSym 2005 mailing list! • Join mailing list for wiki-related events! <hr/> <p>WIKISYM 2005 IS OVER!</p> <ul style="list-style-type: none"> • WikiSym 2005 website • Conference proceedings • Conference video with discussion notes <hr/> <p>WikiSym 2005</p> <p>2005 International Symposium on Wikis Oct 16-18, 2005, San Diego, California, U.S.A. Co-located with ACM OOPSLA 2005 In cooperation with ACM SIGGRAPH See http://www.acm.org Archival • Peer Reviewed • ACM Sponsored</p>
--

注) また、その前の10月14～16日には、同じくサンディエゴでRubyについてのカンファレンス「RubyConf 2005」が開かれました。こちらもRuby関係者が一堂に会するエキサイティングなイベントでした。

基調講演: Ward Cunningham 「創造性のつぼ」

Wikiを開発したWard Cunningham氏(写真1)による基調講演です。Wikiのおもしろさを最も強く感じさせる講演であり、このシンポジウムのハイライトだったとも言えます。

Wikiの思想的背景

まず、Wikiがどのような思想的背景を持つのかを、Wardが自身の言葉で語ります。表1に挙げた象徴的な言葉によるスライドを元に、それぞれの言葉をふくらませて、Wikiの背景となる考え方について語りました(表2)。その後、匿名性や評価システムのアイデアについて質疑応答が交わされました。

Wikiの自主管理

講演後半では、実際にPortland Pattern Repository(Ward's Wiki: <http://c2.com/cgi/wiki/>)がどのように組織化されているのかを、具体例を見せながら解説しました。Ward's Wikiは指数関数的な拡大を続けてきたのです

が、あるときを境に伸びが止ります。spamが現れ、それへの対抗策を採ったからです。

対抗策として、たとえば登録したユーザだけが編集できるようにするなどの方法がありますが、そのような方法を採用すればWikiの「オープンさ」が失われ「本当の意味で読む」ことができなくなってしまいます。そこで、オープンさを保ちながら管理する方法として、書き込みアクセスの数を、秒単位、分単位、時間単位で表として表示し、特異なアクセスパターンを持つアクセスをわかりやすくし、同じIPアドレスからの書き込みを順に見ていくことができるようにするなどといった、たくさんの「パワーツール」を作っていました。

このように多大な努力をはらって、匿名による編集を可能にし続けているという点から、Wardが匿名による関与を非常に重要なものと捉えていることがわかりました。

写真1 Ward Cunningham氏

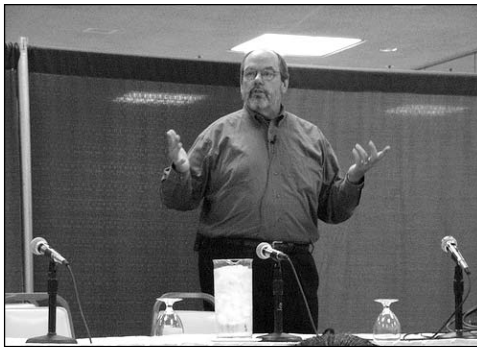


表1 Ward Cunningham氏が考えるWikiの概念

Wikiは、コミュニティによって支えられた作品である
blog圏は、作品を生み出しうるコミュニティである
ある人の言葉は、コミュニティへの贈り物である
共同で作品を作るといことは、お互いを信頼することである
リファクタリングは作品をしなやかにする
あの小さなtextareaから、百科事典のように大きな仕事が達成されたのは驚くべきことである
匿名性は、リファクタリングにおける軋轢を和らげる
Webはこれまで、匿名についての1つの実験だった
人は、誰か知らない人による作品を信じていることがわかった
古き良きインターネットの排他的な時代はもう終わってしまった
創造性における評価システムは機能するかもしれない
創造的な仕事が組織形態の変化を生み出すかもしれない

Ross Mayfield氏によるblog (http://ross.typepad.com/blog/2005/10/ward_cunningham.html)を参考にさせていただきました。

表2 Wikiの背景となる考え方

Wikiとblogの違いをしばしば聞かれるが、blogは作品を生み出しうるコミュニティであるが、Wikiはコミュニティを生み出しうる作品である
Wikiの特性として、あなたは自分の言葉を手放さないといけない
リファクタリングは、芸術家が粘土をこねて形を作っていくような作業だ
人は自分の仕事にサインを残したがる。しかし、できるだけ自分のサインを残さなくても良いように書いてほしい。
元々匿名性は、そのような状況での軋轢を生じさせないようにするために導入したものだ
この匿名性を悪用したのがspamだ。このせいで匿名性から離れようとする動きが生まれてしまった
評価システムはうまくいくかもしれないが、創造性にIDがつけられるのは気を付けたほうが良い

Wardの今後

講演中には触れられませんでした。その日のニュース (<http://www.microsoft-watch.com/>

article2/0,2180,1872348,00.asp) によれば、Wardはそれまで勤めていたMicrosoftを去り、Eclipse財団へと移動したとのことです。

ペーパーセッション

プログラム委員長のDirk Riehle氏 (写真2) によると「論文の採択率は50%だったのだが、最初のシンポジウムであるにもかかわらず高い質を達成することができた」とのことでした。WikiSymで採録された論文は、すでに公開されダウンロードできるようになっています (<http://www.wikisym.org/ws2005/proceedings/>)。いくつかの発表について触れてみます。

Wiki Templates - Adding Structure Support to Wikis on Demand

Wiki上でテンプレートに従った情報入力/表示をできるようにするという発表でした。情報を入力するための入力フォームページ、そこから入力された情報を保持するデータ格納ページ、データを閲覧するときにテンプレートとして使用する表示用ページという3種類のページをすべてWikiページとして作ることができます。

入力フォームから情報を入力すると、統一的な形式でデータが格納され、閲覧ページから、統一的な形式でデータを閲覧することができます。学校で学生に自己紹介ページを作らせる際に、名前、所属などを統一的なフォーマットで

入力してほしいためにこのような機能を作ったとのことでした。

WikiGateway - A Library for Interoperability and Accelerated Wiki Development

サンディエゴ大学のBayle Shanks氏 (写真3) による「WikiGateway - A Library for Interoperability and Accelerated Wiki Development」(<http://interwiki.sourceforge.net/cgi-bin/wiki.pl/WikiGateway>) は、Wikiと何かを結ぶライブラリを作り、その間を相互に結べるようにしたという発表です。MediaWiki, MoinMoinなど複数のWikiエンジンへの読み書き、WebDAV, Atom, XMLRPCなどの規格に対応し、Perl, Pythonからライブラリとして使えます。

これを使いたいいくつかのサンプルアプリケーションとして、たとえば「wikicp」というコマンドラインツールを使うと、Wiki上のページ群をまとめてローカルに保存したり、その逆に手元にあるファイルをまとめてWikiにアップしたりできます。他に、Wikiエンジンへの読み書きをWebDAVプロトコルに変換することによって、

写真2 Dirk Riehle氏



写真3 Bayle Shanks氏



Wikiをファイルシステムとしてマウントできるようにするシステムなどを作っています。

このように、WikiエンジンとWebDAVクライアントの間に入ってプロトコル変換をするなどといった使い方が想定されているため、WikiGatewayという名前が付いています。

本質的には、Wikiに対するAPIが整備され、すべてのWikiエンジンが統一したAPIに対応できるようになれば、このWikiGatewayのようなシステムは不要になるでしょう。WikiGatewayはこのような状況を出現させるための手助けをし、結果としてWikiGatewayが不要になるようにすることが最終的な目標であるとのこと。

qwikWeb - Integrating mailing list and WikiWikiWeb for group communication

筆者が開発したWikiエンジン「qwikWeb」(http://qwik.jp/)、図16)の発表を行いました。インターネットを介したコラボレーションのような小さなグループのためのグループウェアには適切なものがありません。通常はメーリングリストを使ってコミュニケーションをとりますが、情報

図16 qwikWebの紹介ページ (http://qwik.jp/qwikWeb.html)



が蓄積されない、共同編集する文章を保持できないなど、機能が不十分です。同時にWikiを使うこともあります。通常はメンバ管理機能を備えていないなど、機能に不満があります。

その両者を統合することによって、両方の利点を兼ね揃えたシステムができるはずだ、というアイデアを元にした、メーリングリストとWikiを統合したグループコミュニケーションシステムです。主要な機能の他に、JavaScriptを使った動的な履歴表示機能などを紹介したところ、大変好評でした。

BOF

すべてのセッションが終了、2つのBOFが開催されました。

Wikiの標準化

Wikiの標準化と一言で言っても、標準化の対象は多岐にわたります。そこでまず「標準化プロセスの標準化」について議論されました。インターネットにおけるRFCや、JavaにおけるJCPを参考にし、Wikiにおいても同様に標準化についての議論を進める場としてWSR (Wiki Specification Request, http://www.wikisym.org/wiki/index.php/Wiki_Specification_Requests) が提唱されました。さっそくシンポジウムの終了後にメーリングリスト (http://www.wikisym.org/cgi-bin/mailman/listinfo/wiki-standards) が立ち上げられ、議論が開始されています。現在表3

のようなWSRが提案されています。

BOFでは、Wiki APIの重要性について議論されました。現在はまだWikiの読み書きを行うWikiクライアントはありません。それは、現在はまだまださまざまなWikiエンジンで読み書きを行う統一したAPIが存在していないことが原因ではないでしょうか。これは典型的な「卵と鶏問題」になっており、どこかでこの循環を打破したい、そのためには共通規格としてWiki APIを整備し普及させたい。そのような

表3 Wiki Specification Request一覧

WSR 1: All Pages List (ページ一覧の取得)
WSR 2: Wiki API (Wikiの読み書きAPI)
WSR 3: Wiki Interchange (Wiki間のデータ交換)
WSR 4: Sister Sites (姉妹サイトの連携)
WSR 5: Shared Antispam Blacklist (spamブラックリストの共有)

http://www.wikisym.org/wiki/index.php/Wiki_Specification_Requests

議論が行われていました。

未来のWiki

「Cybernetic Roadmap」という未来のWikiについてのアイデア交換を行うBOFも行われました。参加者は、Wikiやネットに関連するアイデアをポストイットに書いて壁に貼っ

ていきます。たとえば「Fax Wiki」は、Faxを送るとそれがWikiの1ページになるというアイデアです。ある程度アイデアが集まったら、それを未来の時間軸の上に並べていき、未来予測をします。Wikiに関するさまざまなアイデアが交換されていました。SD

WikiSym 2005レポート [パネルセッション]

TEXT = 新井俊一 (ARAI Shunichi)
 (有)メロートーン

WikiSym 2005 Monday

月曜日(10月17日)は、論文発表とパネルディスカッションが並行して行われ、筆者はパネルディスカッションを聴講しました。

The Future of Wikis

午前のパネル(表4)はThe Future of Wikisと題され、MeatballWikiの開発者Sunir Shahが司会者を務め、Ward Cunningham, Ross Mayfield (SocialText CEO), Jimmy Wales (Wikipedia創設者)らがパネリストとして参加しました。

このパネルでは、Wiki (<http://meatballsociety.org/cgi-bin/future>) が用意され、議論と同時並行してパネリストと聴衆がWikiページを更新していきました。会場ではもちろん無線LAN接続が提供されており、聴衆も自由に自分のPCから更新することができます。

司会者からはテーマとしてPain, Future, Solutionsが示されました。Painとは現状の

Wikiにおける不満点、Futureは将来の方向性であり、Solutionsは具体的な解決策です。司会者が会場にPainの例を聞き始めたら、多くの例が会場から挙がり、聴衆同士で議論が始まり、パネリストの喋る隙がないほど白熱した展開となりました。

Wikiの入力方法

まず初めに議論となったのは、Wikiの入力方法についてです。Wikiの入力方法は技術者以外にはとっつきにくいなどの発言がありました。またWikiの文法がWikiソフトごとに大きく異なったり、使い勝手が異なることも混乱を招くとの意見です。

それを解消する技術としてWikiwyg (<http://www.wikiwyg.net/>) が大きなトピックスとなっています。WikiwygはJavaScriptなどを活用し、WebブラウザからWikiページをワープロソフトのように編集できる技術です。

入力方法だけでなく、ファシリテーションにも技術が必要との意見がありました。ページをリファクタリングするなど、プログラミングの経験が必要というのです。議論の進め方なども含め、フリーのWiki利用ガイドが望まれるとの意見もありました。

構造化データの採用

もう1つの大きな流れとして、Wikiに構造化デ

表4 The Future of Wikisのトピック

Wikiwyg
Mindmap
Hypercard
Wiki + Excel
Structured / Unstructured
Enterprise Level Wiki
Access Control

ータを取り入れることがあります。構造化データとは、住所録や家計簿のようなデータです。従来はスプレッドシートやデータベースで管理されていたものをWikiに統合しようという試みです。

カード型データベースが衰退している中でも、同好会の名簿や会計管理など、独自の構造化データを必要とする例は多いはずで、そうしたデータを共有するベースとしてWikiを使おうというアイデアです。会社の定型書類などもWikiに載せることができます。実装としては、TWiki (<http://twiki.org/>) が代表的なようです。

筆者が聞いた限りでは、データを構造化してWikiをシステムとして拡大したい一派と、Wikiを純粋にコラボレーションツールとして捉える一派 (Cunninghamら) に、大きく分かれているように感じました。数年後にはWikiから分派した構造化情報共有システムが生まれているかもしれません。

データを構造化するメリットは、処理を単純化または自動化して、データ処理を楽にすることにあると思います。それには自動化のためのプログラム機能が、Microsoft Excelのような優れたUIを実装が必要ではないでしょうか。とくに入力支援 (カレンダーやセレクトボックスなど) や内容チェック (必須項目など) のニーズが高いと思います。

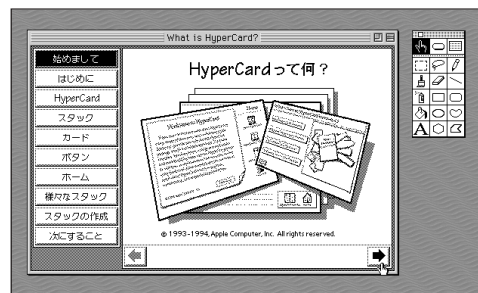
会場からもHypercard (図17, Appleが開発したカード型データベースとハイパーテキストの融合システム) のようなシステムが良いとの声がありました。Hypercardはオブジェクト指向言語を内蔵し、だれでも簡単にプログラムを作成できます。もしかしたらWiki+プログラム言語というのが次のトレンドかもしれませんね。

オフィススイートとの融合

もう1つの意見としては、WikiをMicrosoft Officeと融合させようという意見もありました。Word, Excel, Powerpointを共有編集できるようにするのが、そうなる元々のWikiとは大きく離れてしまいますね。

図表をWikiに入れたいというニーズもありますが、差分や履歴などの管理が難しいという問

図17 Hypercard



題があります。Wikiをコラボレーションツールとして捉える向きは、Mindmapを共有して、発想の共有やブレインストーミングに使おうというアイデアを持っているようです。

Enterprise Wiki

最後に話題となったのがEnterprise Wikiです。これは午後のパネルの内容とつながるので、次の項で述べることにします。

このパネルは、最後まで会場の皆でアイデアを出し合うといった進行になりました。Wikiの最新動向に詳しくない筆者は楽しむことができましたが、つねに情報を仕入れている人にとっては物足りない内容だったようです。

Wikis in the 'Consumer Enterprise'

午後のパネルはちょっと変わったタイトルです。「Consumer EnterpriseにおけるWiki」ということですが、そもそもConsumer Enterpriseというのが耳慣れない造語です。司会者のEugene Eric Kimはコンサルタントで、パネリストはJoe Klaus (JotSpot創設者), Peter Thoeny (TWiki開発者), Frank Well (Motorola), Shashi Seth (Google) です。

KimとKlausは、技術者ではなくビジネスマンであるため、午後はぐっとビジネス色が強くなりました。まず司会のKimの提案により、椅子を円形に並べ替えて、聴衆も含めた全員が自己紹介をしてからスタートしました。

Consumer Enterprise

Consumer Enterpriseとは、企業で使うソ

ソフトウェアですが、トップダウンで導入するのではなく、Microsoft Officeのように従業員が独自に使い出し、それが全社的に広がるものだと思います。業務システムは極めて複雑で使いにくいものが多いが、小売店で売られるビジネスソフトウェアは使いにくくは売れません。そうしたボトムアップのビジネスソフトウェアとしてWikiを活用するという話です。

アクセス管理

Wikiを企業で利用する場合には、アクセス管理が問題になります。部署、役職、協力会社、非正社員など、さまざまな条件によるアクセス権が必要な場合があります。そのためにはWikiと既存のユーザ管理システムを接続しなければなりません。

とはいえ、イントラネットでWikiを運用する場合、インターネットにWikiを設置する場合のように、コメントspamを心配しなくても良いという利点があります。管理はずっと楽になりますし、もし組織がフラットであればユーザ認証も必要ありません。そのためかどうかWikiの大多数はイントラネットに設置されているらしいです。

Googleでは全社的にWiki (Twiki) を利用しており、多くの情報交換がWiki上で行われています。組織がフラットなので、あまりアクセス権限などは問題にならないようです。ページが膨大な数になるので、特定のページへのリーチはおもに検索によるようです。1つのWikiに情報を集約し、Wikifarmなどを利用しないのが秘訣かもしれません。

WikiSym 2005 Tuesday

Jimmy Wales: Wikipedia in the Free Culture Revolution

Wikiを利用したフリー百科事典Wikipedia (図16, <http://www.wikipedia.org/>) の創設者であるJimmy Walesの講演です。最初はWikipediaの紹介から始まりました。しかしながら聴衆はWikipediaを利用したことがある人が大半ですので、やや冗長に感じました。

Wikipediaは全世界で40位に入るほどのアクセス数を集めており、『New York Times』よりも多くのアクセスがあります。

ファイル形式や商品情報まで

Wikipediaの目標は、人類の知の総和に自由にアクセスできるようにすることです。Wikipediaを運営するWikimedia財団では、Wikipedia (百科事典) の他に、辞書、教材、音楽、美術、ファイル形式、地図、商品情報 (aggregator)、検索エンジン、コミュニティサイトなどを扱っていく希望があるそうです。

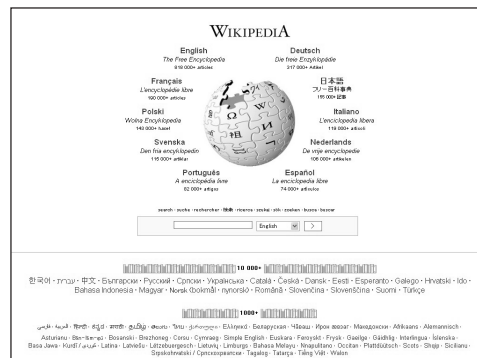
ファイル形式や商品情報というのは少し不思議に聞こえます。ファイル形式とは特許で保護されたMPEGのようなファイル形式ではない、

フリーのファイル形式を作ることです。商品情報とは、ISBNのような一意のIDを用意し、商品の情報をフリーにやりとりできるようにすることです。現状では企業に商品情報が独占されており、そのためにeBayのようなサイトに流通を独占されています。それを改善する試みのようです。

ダーウィンの思想

Wikipediaはダーウィンの思想に基づいているそうです。すなわち良いコンテンツが生き残り、悪いものは淘汰されます。特別な評価管

図18 Wikipedia



理システムを持たずとも、コミュニティによって各々の投稿者の評価が定まってきます。全体のうち7,000人のユーザが70%のコンテンツを編集しています。

Wikipediaは膨大なコンテンツを持つ百科事典にもかかわらず、ログインせずに編集することもできます。しかし、多くのユーザが即時に査読をするので、おかしなコンテンツはすぐ排除されます。もし議論がどうしても収集のつかない場合は、投票によって決断します。その投票も特別なシステムを持たず、Wiki上の書き込みで集計します。

Wikipediaにおける意志決定

おもしろかったのがWikipediaにおける意志決定手法についての説明です。Wikipediaでは行動を決定するときに、コンセンサス（全員の合意）、民主主義（投票）、貴族主義（評判の高いユーザや管理者）、君主制（Walesが最終決定者）のすべてをミックスしているということです。

Walesの意気込みや信念が十分に伝わってくる講演でした。しかし、Wikipediaにはおもしろい仕掛け（たとえば参加者個人の自己紹介や会話ページなど）があるのですが、そうした細かい点にじっくり触れられなかったのが残念です。

まとめ

第1回目のWikiに関するシンポジウムとして、多数の聴衆が参加し、活発な議論が交わされていました。来年のWikiSym 2006については、現在WikiSym Wiki (<http://ws2006.wikisym.org/space/start>)

にて議論が進められています。現時点では、2006年の8月か9月に、デンマークもしくはドイツで行われる予定となっています。今後の発展に期待します。SD

Column

yomoyomoのWikiばなし

TEXT
yomoyomo

第6回 ハイブリッドWiki

江渡浩一郎氏がWikiSymにおいて発表をされたqwikWebですが、実は本連載「Wikiつまみぐい」の編集作業自体qwikWeb上で行われています。正直に書くともーリングリストとWikiを組み合わせることの利点が筆者にはピンと来なかったのですが、実際に利用してみるとなかなか便利で、本連載のような（ソースコードや図版を含む）ドキュメントの編集作業に適していることがわかりました。Wikiと他のツールを組み合わせることでグループコラボレーションを行う場面が既に多いでしょうが、コラボレーションをより綿密に行いたいければ、複数のツールの機能を連携させた統合的な環境として利用したい場合も出てくるでしょう。qwikWeb以外のそうした「ハイブリッドWiki」の

代表例と言えるのが、Edgwall Softwareが配布するフリーソフトウェアTrac (<http://www.edgwall.com/trac/>) です。Tracは、Wiki、Subversionリビジョンブラウザ、そしてバグトラッキングシステムの3つの機能で構成されるソフトウェアで、ソフトウェア開発のプロジェクト管理に利用されることを想定しています。

これまではWikiアプリケーションに必要な機能拡張が問われることが多かったのですが、WikiSymでの議論を見ても、今後はオフィススイートなど、既存のアプリケーションにWiki的機能が取り込まれる機会が増えそうです。その場合、Wikiから何を切り出せるかという、これまでと逆の視点が必要になるでしょう。